

いのちは時間～長崎っ子の心を見つめる教育週間校長講話～

6/25(水)～7/4(金)は、「長崎っ子の心を見つめる教育週間」です。本校でも命の尊さや心のあり方を見つめる様々な教育活動を実施していますが、6/25(金)の1時間目、命とは何かについて考えるきっかけになればと思い、校長講話を行いました。

「命とは何か」という問い。私には明確な答えがあります。それは「**命は時間**」ということです。このことを教えてくれた一冊の絵本の読み聞かせを行いました。

その絵本とは、医師の日野原重明先生が、95歳の時に行ったいのちの授業をまとめた「いのちのおはなし」という絵本です。日野原先生は2017年に105歳でなくなるまで、医師として現場に立ち続けるという信念を貫いた方です。

絵本では「いのちはどこにある」という問いから、聴診器をあてて、生きている証である心音を聞き合う活動を行います。その活動のあと、日野原先生は、黒板の横いっぱい書いた一本の直線をもとに、「**これから生きていく時間。それが君たちのいのちなんですよ**」と子どもたちに語りかけます。絵本は、子どもたちがこれからの時間をどう使おうか考えはじめた所で終わりますが、あとがきの中で、日野原先生はこうおっしゃっています。

人が生きていく上で、もうひとつ大事なことがあります。それは「こころ」です。お互いに手を差し伸べあって、一緒に生きていくこと。こころを育てるとは、そういうことです。自分以外のことのために、自分の時間を使おうとすることです。

君たちは昨日から今日までの一日で自分の時間を他の人のためにどれくらい使いましたか？君たちの時間を君たちは自分のためだけに、使っていませんか？お母さんのお手伝いをしたり、道をきれいにするなど、ほかのことのためにも時間を使ってください。

私の時間は残り少なくなってきましたが、自分の時間を他の人のために使って精一杯生きたいと思います。言葉で言うのは簡単ですが、実は難しいことです。でも意識して、努力したいと思います。

自分のもっている自分の時間。それが自分のいのち。君たちはこれから、そのことをよく考えて、生きていってほしいと思います。

「誰かのために時間=命を使うと、その喜びは大きくなると思う」という私の思いも伝えましたが、全校生徒がしっかりと講話に臨む姿勢が大変嬉しく、この講話に時間=命をかけたかいがあったと思えました。以下、生徒の感想を抜粋して紹介します。

○一度読んだことがあった本だったんですが、今中学3年生になってもう一度命について考え直すと、よくわからないけど、命の大切さがいつもと違って思えました。

○私も命はどこにあるのかと考える時間が多く、でも、いつも曖昧な答えでした。今日講話を聞いて、命とは「時間」。その言葉を聞いて納得しました。確かに、時間だったら、人のために命を使うことは、時間を使うこと。人の命を助けることは、人の生きる時間を伸ばすこと。私もそんな人の一部となれるような人になりたいなと改めて感じました。そして、人の一部になった先に、最高の喜びを味わえるのかなと思いました。

○命は時間の考え方はすごく共感できた。日常生活を送っているうえで、時間をどのように使うかはすごく大切だと思う。時間を有意義に使えた日は、すごく生きてるなって感じる。生きるためには命が必要で、生きるためには時間が必要。私は自分の命、時間、人の命、時間も大切にしたい。